わかりやすいプロジェクト（国会事故調編）
イラスト動画
http://naiic.net/iv/

1. 国会事故調ってなに？

2. 事故は防げなかったの？

3. 原発の中でなにが起こっていたの？

4. 事故の後の対応をどうしたらよかったの？

5. 被害を小さくとどめられなかったの？

6. 原発をめぐる社会の仕組みの課題ってなに？

LET’S GOOGLE “わかりやすいプロジェクト”！！

For discussion purpose only. Klotho Partners Inc all right reserved.

国会事故調報告　結論と提言 【問題解決に向けて】

【問題解決に向けて】

本事故の根源的原因は「人災」であるが、この「人災」を特定個人の過ちとして処理してしまう限り、問題の本質の解決策とはならず、失った国民の信頼回復は実現できない。これらの背後にあるのは、自らの行動を正当化し、責任回避を最優先に記録を残さない不透明な組織、制度、さらにはそれらを許容する法的な枠組みであった。また関係者に共通していたのは、およそ原子力を扱う者に許されない無知と慢心であり、世界の潮流を無視し、国民の安全を最優先とせず、組織の利益を最優先とする組織依存のマインドセット（思いこみ、常識）であった。

> 当委員会は、事故原因を個々人の資質、能力の問題に帰結させるのではなく、規制される側とする側の「逆転関係」を形成した真因である「組織的、制度的問題」がこのような「人災」を引き起こしたと考える。この根本原因の解決なくして、単に人を入れ替え、あるいは組織の名称を変えるだけでは、再発防止は不可能である

７つの提言の構造

【提言１：規制当局に対する国会の監視】

国民の健康と安全を守るために、規制当局を監視する目的で、国会に原子力に係る問題に関する常設の委員会等を設置する。

1. この委員会は、規制当局からの説明聴取や利害関係者又は学識経験者等からの意見聴取、その他の**調査を恒常的に**行う。
2. この委員会は、最新の知見を持って安全問題に対応できるよう、事業者、行政機関から**独立した、グローバルな視点を持った専門家からなる諮問機関**を設ける。
3. この委員会は、今回の事故検証で発見された多くの問題に関し、その実施・改善状況について、**継続的な監視活動を行う（「国会による継続監視が必要な事項」として添付）**。
4. この委員会は**この事故調査報告について、今後の政府による履行状況を監視し、定期的に報告を求める。**

国会による実行

行政府の履行監視

提言２：政府の危機管理体制の見直し

提言３：被災住民に対する政府の対応

提言４：電気事業者の監視

提言５：新しい規制組織の要件

国会による立法手当

提言６：原子力法規制の見直し

提言７：独立調査委員会の活用

未解明部分の事故原因の究明、事故の収束に向けたプロセス、被害の拡大防止、本報告で今回は扱わなかった廃炉の道筋や、使用済み核燃料問題等・・・について調査審議するために、国会に、原子力事業者及び行政機関から独立した、民間中心の専門家からなる第三者機関を設置する。

まず⇒「実施計画」と「進捗状況の国民への公表」

【提言の実現に向けて】

- ここに示した７つの提言は、当委員会が国会から付託された使命を受けて調査・作成した本報告書の最も基本的で重要なことを反映したものである。

- したがって当委員会は、**国会に対し**

  - この**提言の実現に向けた「実施計画」**を速やかに策定し、
  - その**「進捗の状況を国民に公表」**すること

を期待する。

For discussion purpose only. Klotho Partners Inc all right reserved.

高校生【福島県×首都圏】次世代プロジェクト　2015.3.8.共同コメント

原発事故から「未来」が見えた。「未来」の子どもに誇れる「いま」を。

私たちは【福島県×首都圏】次世代プロジェクトに参加した福島県と首都圏の高校生です。
私たちは2015年1月～３月にかけ国会事故調報告を出発点として計５回の「ともに考えること」に取り組んでまいりました。

私たちは、こんな「未来」に参加したいと考えています。

1. 大人の本音が聞ける「未来」。
2. 皆が考えることに妥協せず、多様な意見が互いにwin-winになるまで考え抜く「未来」。
3. 皆が考える材料を自分に当てはめて、自らがどんな社会的役割をもてるか、主体的に考え続ける「未来」。
4. 対症療法（目に見える課題を潰すこと）に満足せず、慢性疾患（根本的な課題）を直視する「未来」。

私たちを取り巻く世界、いま福島原発事故を取り巻く状況を通してみえる「未来」はそんな理想の世界でしょうか。

私たちが参加したい「未来」を創るためには、以下のようなことが必要だと考えます。

1. 「大人と大人」「大人と子ども」「多数と少数」「個人と個人」が本音で語り合うこと。
   - そこでは「立場」等を介在させず、「理由」と「根拠」に基づく議論がwin-winになるまで重ねられます。
   - 参加者は相互に信頼し、結論を急がず広い視野を持って少数の意見を尊重し、全員が主体的に考えます。
2. このような「場」が作られてゆくためには、自分の意見の根拠を考え、少人数のグループをつくって意見を交わし合意できる場とその教育が不可欠です。

私たちはまずは同年代と一緒に考える「場」を創ることに取り組み、子どもが変わる姿を大人に見せていきたいと考えます。
私たちは未来に対する努力を重ねていきたいと思います。
私たちは泳ぐことをあきらめ、ただ流されるままの魚のようになりたくはありません。

この共同コメントはその中間報告です。

【企画／運営】 わかりやすいプロジェクト（国会事故調編）高校生チーム ／【本件照会先】 わかりやすいプロジェクト（国会事故調編）
参照：平成27年3月10日 第12回原子力委員会定例会議資料 http://www.aec.go.jp/jicst/NC/iinkai/teirei/siryo2015/siryo12/index.htm